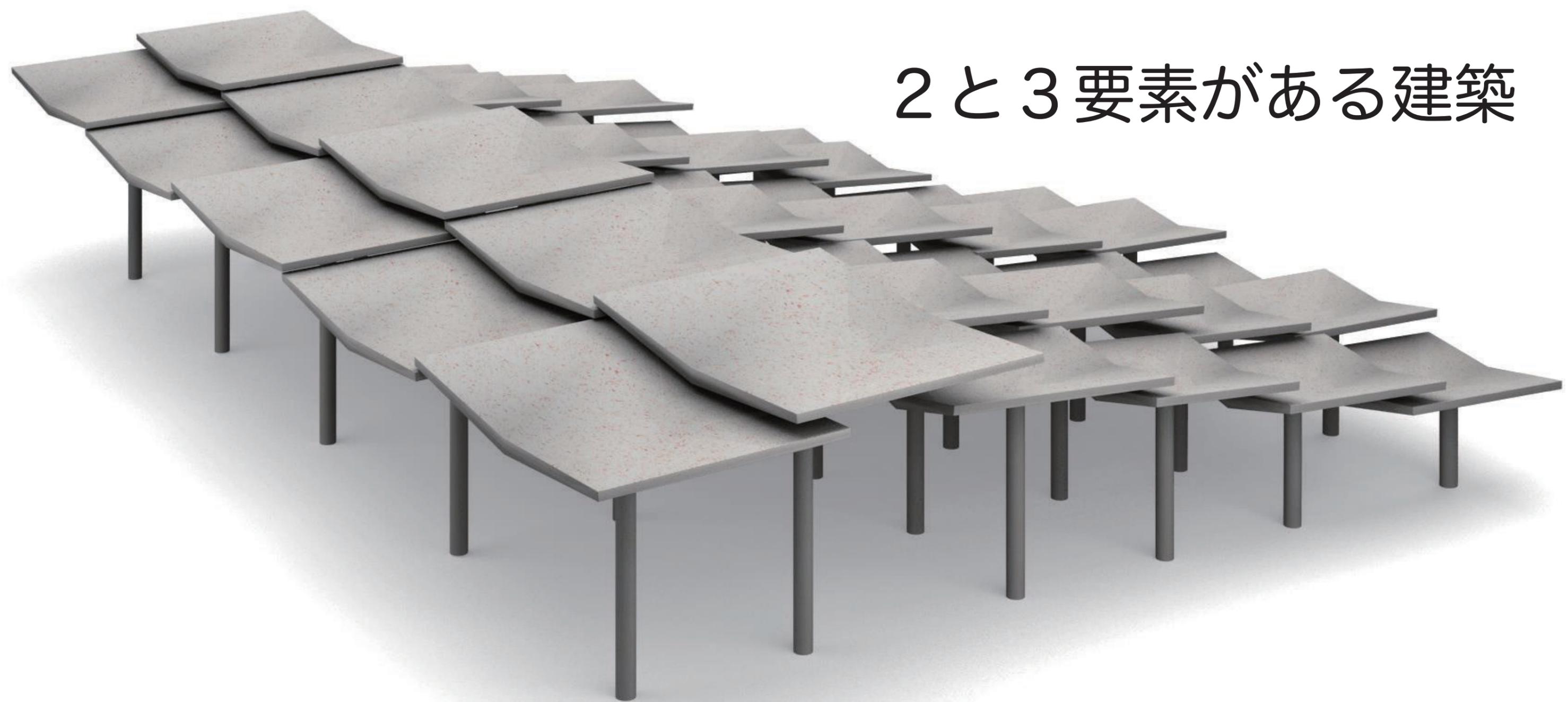


2と3要素がある建築



この沖縄の海辺に屋根をかける。屋根をかけたことで何が生じるのだろうか。そのかけた屋根がもたらすものはいくつあるだろうか。屋根をかけた空間に機能をもたらす。

■設計趣旨

沖縄の綺麗な海辺の近くに建築物をつくる。それがどのような影響を与えるのか思考した。建築物が与える影響は、必ずしも良いことだけとは限らない。建築物をつくるにあたり、物質的な要素が多くあればあるほど、敷地に対して影響する期待値も比例して大きくなるのではないかと考えた。物質的な要素を減らしていくことは、敷地への悪影響を発生させない事に繋がると考える。

そこで、考えられる物質的な要素を減らし、柱と屋根による2つの要素で構成される建築物を組み合わせ、快適な荷捌きスペースと待機スペースを設計する。

『快適』を考える上で、建築的機能の3つの要素「①採光」「②防音」「③換気」に着目した。①採光は、強い直射日光を避け、適量の光が射し込めること。②防音は、内部で発生する環境音で騒音にあたるものから守ること。③換気は、より効率的に行えること。

これら3つを満たすことで、単純な構成の建築物であっても快適性を失わない空間を提案にする。

2



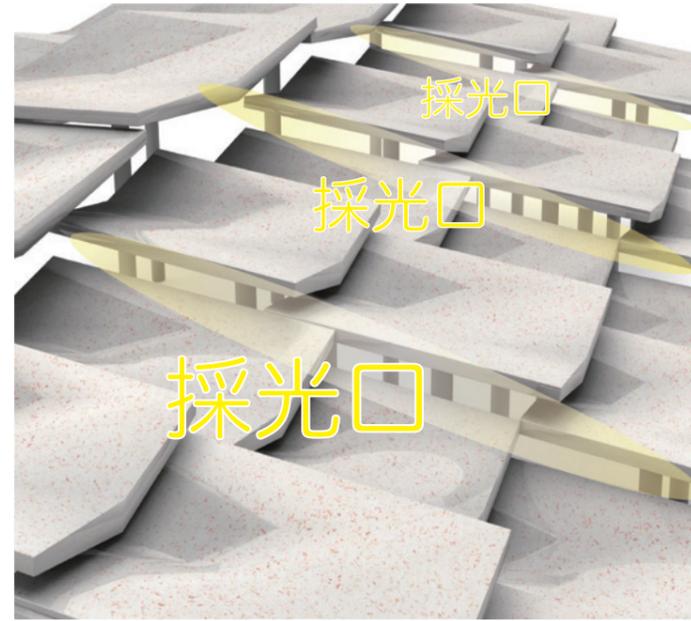
柱と屋根の建築物

3

採光
防音
換気

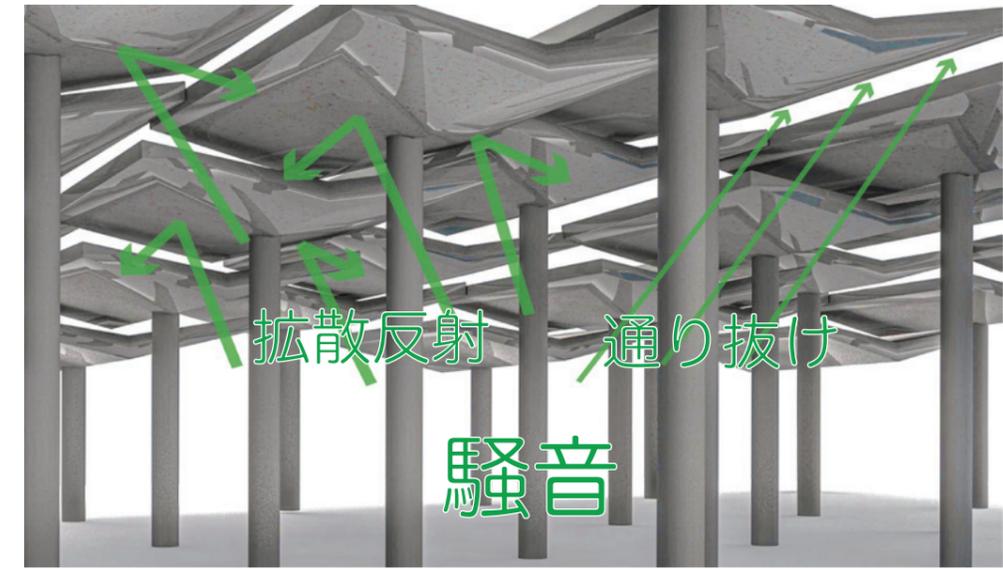
①採光

■屋根の隙間から光を絞り入れる。



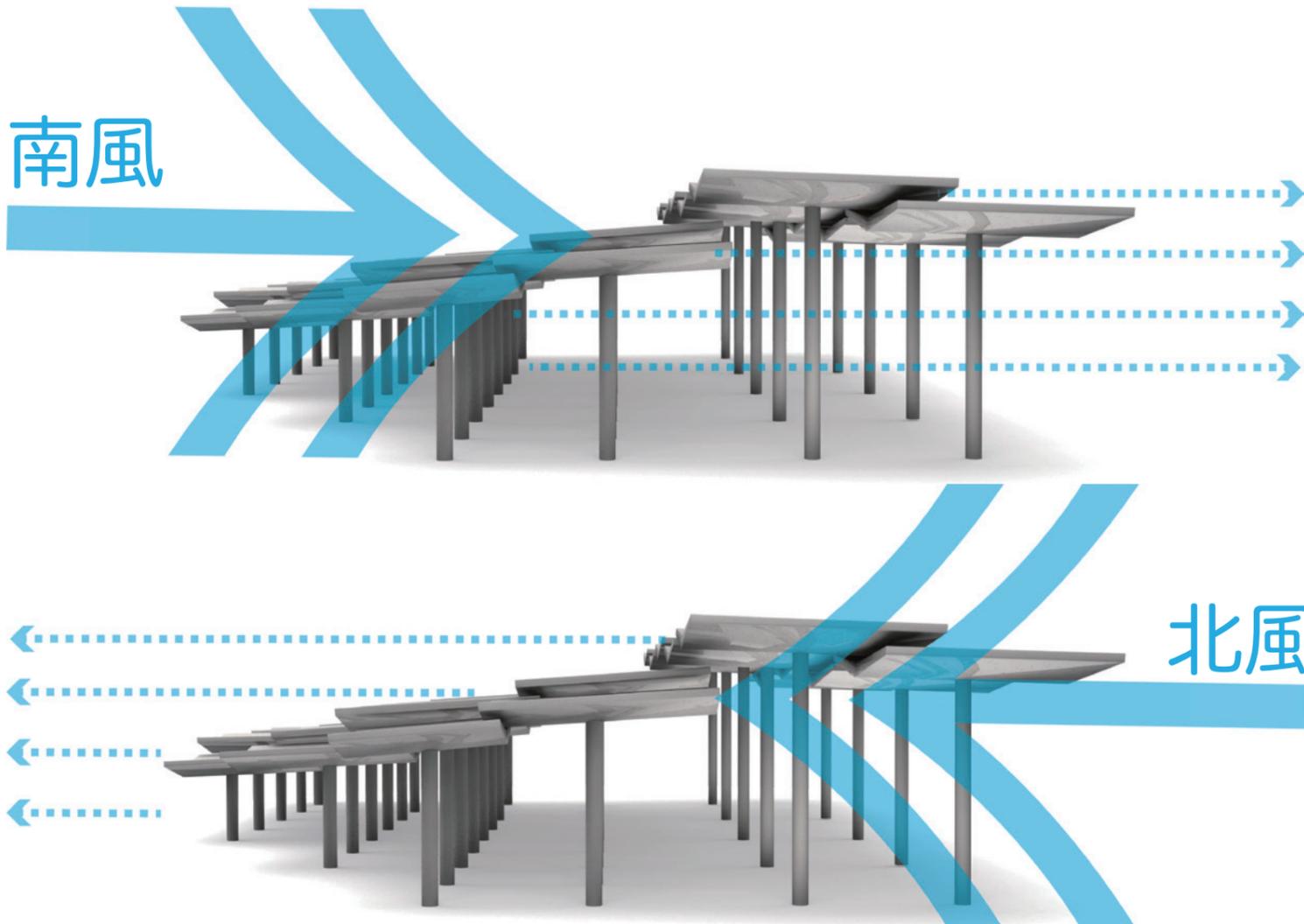
②防音

■屋根の隙間から音を逃し、また屋根裏の凸形状より音を拡散反射させ反響を抑える。



③換気

■屋根同士の間隙に気流が流れ拡がり、空気の循環を拡張する。



配置計画

